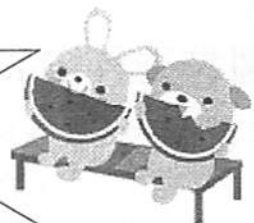


♪新着案内♪

# 図書だより 7月号



平成 29 年 7 月 13 日 輪島市立輪島中学校

今月は、夏休みの読書に最適<sup>さいてき</sup>な本を紹介しします。裏面には、図書委員のおすすめ本も掲載していますので、ぜひ参考にしてくださいね！

「かがみの孤城」 辻村 深月/著

“いつものようにお腹が痛い。仮病じゃない。本当に痛い。”

中1のこころは、クラスメイトとのトラブルが原因で学校へ行けなくなり、いつも家の中で過ごしている。ある日、部屋の鏡が突然輝きはじめて鏡をくぐりぬけると、そこは城の中だった！同じような立場の7人の中学生が集められていた…。

学校へ行きたくても行けない子どもの心情がリアルに描写されていて、最後の結末には、驚きや感動とともにあたたかい気持ちになれる。



「本を守ろうとする猫の話」 夏川 草介/著

“本には力がある。力のあるたくさんの物語を読めば、お前はたくさんの心強い友人を得ることになる。”

高校生の林太郎は、古書店を営む祖父と二人暮らしだったが、祖父が突然亡くなってしまふ。ある日本棚を整理していた林太郎は、人間の言葉を話すトラネコと出会う。トラネコは、本を守るため林太郎の力が必要なのだという。



小説ではなく  
実際にあった話が  
好きという人へ。

「鳥居 セーラー服の詩人」 岩岡 千景/著

“このいやな現実から、なるべく遠い世界を”

義務教育を受けられなかった大人がいることを訴えたくて成人した今もセーラー服を着ている詩人の鳥居。信じがたい壮絶な体験をした彼女だったが短歌との出会いが彼女を救った。

どんな短歌なのかは

「キリンの子 鳥居歌集」を読んでみてください。 →

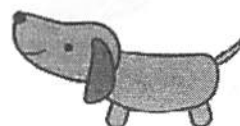


「犬が来る病院」 大塚 敦子/著

“ワンちゃんに会いたい”

聖路加国際病院は、アメリカでは、ごく当たり前に行われているセラピー犬の訪問を日本ではじめて小児病棟に受け入れた。

入院して病気と闘う子供達が犬によっていやされて、ひととき病気のことを忘れられる。4人の子供達の感動の記録。



## 図書委員のおすすめコメント

「人生はワンチャンス！」

この本は、偉人たちの名言を犬の写真に合わせて紹介している本です。魅力は、かわいい犬の写真にいやされて、偉人たちの名言を読んで勉強になるところです。

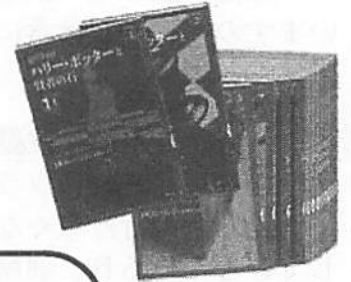


人生は  
ワンチャンス!

DAIWA SHONEN KEI  
VERMONT  
BOOKS  
2008年10月

「ハリーポッター シリーズ」

この本は、主人公のハリー、ロン、ハーマイオニの三人が中心となり、魔法学校でさまざまな事件を解決していくお話です。この本を読み進めていくうちに、ハリーの両親を殺した闇の帝王のナゾや、三人の新しい恋などが分かるのでぜひみなさん読んでみてください！



## 図書委員おすすめ！

# この本は、絶対にいい！



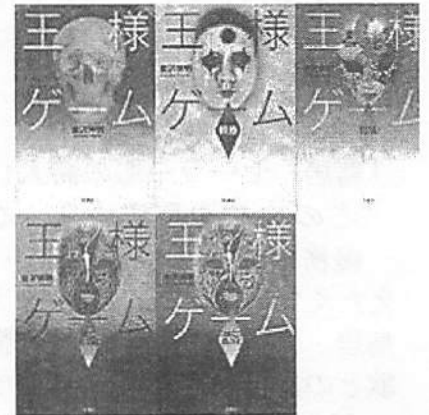
「アルジャーノンに花束を」

この本は、チャーリィという知能が幼児なみしかない青年が手術で天才になる話です。この本の魅力は天才になったチャーリィがいろいろな感情を知り、人の心の真実を知っていくことです。



「王様ゲーム シリーズ」

この本は、主人公とたくさんの人が王様ゲームという死のゲームを最後の1人になるまで続けていくという本です。魅力は各本ごとに異なる主人公が出てきて、ちがう結末をむかえるので、たくさんの物語を楽しめるところです。



「県庁おもてなし課」

この本は実際にある県庁おもてなし課を題材とした話です。主人公の掛水という人が高知県を活性化させるため奮闘する話です。



今回紹介した本は、すべて輪島中の図書室にありますので、ぜひ借りにきてください！